

令和6年5月市長定例記者会見

日時：令和6年4月30日（火） 午前10時30分～

場所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、朝日新聞、射水CATV、

当局出席者：市長、財務管理部長、企画管理部次長、子ども福祉課長、環境課長、
教育委員会事務局次長、人事課長

Q1. 職員採用に関して、技術職員の採用拡充の内容と現状の体制を教えてください。また、自治体の技術職が採用困難と言われている中で、射水市における例年の充足状況、人材確保に向けた取組についても教えてください。

A1. 令和5年度は土木職のみで若干名募集し、1名採用した。令和6年度は、土木・建築でそれぞれ若干名募集しているが、土木職で2名程度、建築職で1名採用できればと思っている。ただし、良い人材がいれば、予定人数に関わらず積極的に採用したいと考えている。

充足状況に関しては、能登半島地震からの復旧・復興のため、他自治体から中長期の職員派遣をしていただいている。このような状況の中で、まずは市の職員採用を着実にやり、体制の拡充を図り、復旧・復興に向けた取組を進めていきたいと考えている。採用実績は、土木・建築職ともに、募集したが採用に至らなかった年もあり、慢性的な不足状態と認識している。

採用への取組は、就職説明会・技術職現場見学会を開催しているが、技術職に関しては、参加申込みが少ない。あるいは、ない年もある。今後、見学会の開催時期などを見直し、学生や就職を希望される方が参加しやすいようにしていきたい。また、市では資格取得の経費支援なども行っているが、資格のスキルアップを図る研修の拡充も図りたい。技術職の方が射水市役所への就職を希望し、市職員として、市民の幸せの実現、まちの整備を通して活躍しながら、本人も成長していける体制を整え、採用に繋がっていければと考えている。

Q2. どれぐらいの人員体制が適切と考えているか。

A 2. 現体制を維持するため、退職者に対して募集をするのが基本的な考え方である。しかし、今回は能登半島地震もあり、優秀な方がいれば、多く採用したい。

Q 3. 就職説明会の開催時期の見直しなどは、今後の取組か。

A 3. 今回は募集要項の発表であるため、就職説明会などの開催については別途ご案内する。

Q 4. 予定通りに採用できなかった場合、2次募集を行う可能性はあるのか。

A 4. 他自治体では継続して募集しておられるところもある。市としては、まず募集を行い、どのような状況になるか把握する。2次募集を行った年もあるため、状況に応じて考えていきたい。

Q 5. 5月下旬から7月にかけて、台北市士林区の学生が射水市に修学旅行で訪れ、射水市内の生徒と対面交流するとのことだが、何校、何人が来訪するのか。

A 5. 詳細は担当課に確認していただきたい。

Q 6. 体験内容や交流内容への思いを教えてください。

A 6. これまで士林区と射水市の生徒・児童はオンラインで交流してきたが、対面交流は初めてとなるため、各学校で受け入れに向けた工夫をされると思う。学校での授業体験や観光を通して、射水の魅力を感じていただきたい。詳細な内容は決まり次第、担当からご案内する。

Q 7. 射水市の生徒も士林区を訪問する予定はあるのか。

A 7. 具体的には決まっていないが、要望や体制が整えば考えていきたい。

Q 8. 5月18日にアランマーレ復興記念マッチが開催されるとのことだが、具体的な内容を教えてください。

A 8. 市民の入場チケット割引、義援金の受付などを想定している。

Q 9. アランマーレ富山のプレーオフ進出が決まったが、昨年と同様にパブリックビューイングを行うのか。

A 9. 担当課で準備を進めている。詳細が決まり次第ご案内する。

Q 10. 4月27日にドラマ撮影のため、新湊で曳山巡行があった。それに関連して、海老江・新湊・大門の3町内から地震の影響で巡行が難しいという声などあったか。

A 10. 新湊地内では地震の被害が大きい。曳山巡行に支障がある箇所では、対応可能なところは修繕していきたいと思っている。まずは、下水道の復旧から始める。その他の地区はまだ具体的な話は出ていないが、被害状況などを把握しながら復旧・復興に努めていきたい。

Q 11. 10月の曳山まつりまでには安全に巡行できるような体制を整えるのか。

A 11. 復旧工事のスケジュールによって、通れない道路がある可能性がある。修繕できる部分は、祭り当日までにしっかり対応できればと思う。

Q 12. 「世界にひとつだけの絵本」について、射水市独自のものか。

A 12. 事業者のノウハウを活用した委託事業である。子どもの愛称、性別、好きな生き物・食べ物・外のもの・お家のもの、親から子へのメッセージ、初めて喋った言葉などのエピソードを申し込むときに入力していただく。それらの情報を事業者が研究技術を生かし、子どもがどんな言葉を話すかというデータに基づいて、子どもの発話状態から次の発話を後押しできるような言葉を絵本に入れる。

委託事業者は全国の他自治体でも同様の取組をしており、射水市独自ではないが、県内初の取組と思っている。

Q 13. 明日（5月1日）に、4月1日の県内人口が100万人を割ることが

発表されると思うが、外国人の割合が高い射水市としては人口対策をどのようにしているのか。

A 1 3. 射水市の人口に関して、社会動態はほぼ横ばい（若干増）だが、自然動態は大きく減少している。人口減少は避けられない状況だ。これまでも子どもを産み育てやすい環境づくり・施策を行うことで、若い夫婦が望む人数のお子さんをもうけることができるような後押しをしてきている。今後も様々なニーズ、社会情勢を捉えながら、しっかり進めていきたい。それだけでは人口減少を解決するのは難しい。今年度、民間事業者と連携しながら、移住定住に関する手厚いサービスを行うため、民間募集をすることとしている。幅広く様々な方から選んでいただけるように努めていきたい。

数字に一喜一憂するのではなく、現状を踏まえながら、人口減少に立ち向かい、住みよい地域社会の実現に向けた対応が必要だと思う。多くの方が射水市に住みたいと思うきっかけにしたい。

外国籍の方々について、富山県内の自治体の中で射水市は外国籍の方の人口比率が最も高い。外国籍の方も住みよい地域づくりが非常に重要なのは、これまでも言われてきている。培ってきたノウハウを生かし、新たな課題なども捉えながら、関係人口の創出に繋がるような国際交流もしっかり取り組んでいきたいと考えている。

Q 1 4. 率直に100万人を割ることについてはどのように感じているか。

A 1 4. 一つ大きなラインであることは間違いなく、人口減少が進んでいく通過点であると思う。人口減少の克服に向けて、減少を緩やかにし、歯止めをかけていくには、今後の更なる取組が必要である。100万人を割ることは確かにショックで、残念でもあるが、そこに一喜一憂することなくしっかり今後の取組を進めていくことが大事だと思う。

Q 1 5. シロエビの不漁に対する考えをお聞きしたい。

A 1 5. 能登半島地震で海底崩落が発生し、海洋生物への影響を懸念をしていたが、シロエビの漁獲が伸びていない。生息域が移動したのか、環境が激変したのか不明である。国や県で海底調査などを行う準備をして

いる。状況が明らかになり、打開策が見えてくればいいと思う。

Q 1 6. シロエビ不漁が続くと、漁師の生活に影響する話もあったが、市として新たな支援を考えているか。

A 1 6. 漁業者の皆さんの安定した経営をしっかりと確保していく必要がある。状況をお聞きしながら、必要な対策についてはしっかりと検討して打ち出していきたいと思う。